

金属加工じゃなくてすいません。

SURESHOT

tel. 043-312-0900  
www.sureshot.jp



# HOTROD SHOW HIGHLIGHTS



車両と削り部屋を往復もしながら、造形を確認し跨がってホジシヨンを検討する。







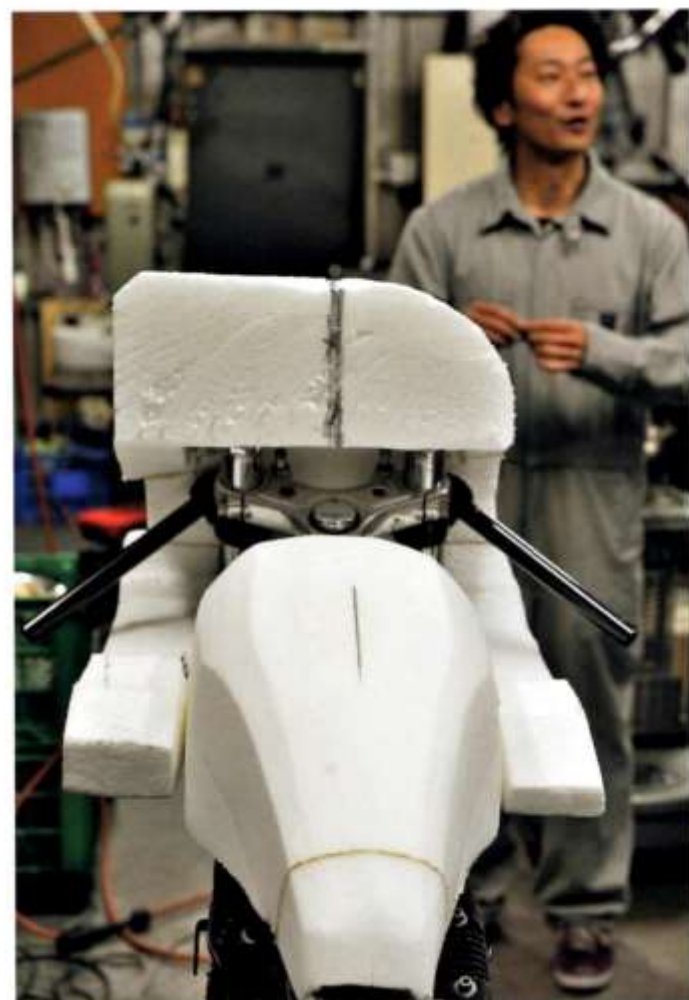
有機溶剤にも溶けない硬質ウレタンだが、意外なほど削りやすく目が均一。しかし削り粉はまるで砂のように目や口や襟元から侵入し、ビルダーを苦しめる。

奇をてらわれないクリーンな仕事で印象的なシュアショットは今年、2つの挑戦をする。ひとつはフルカーボンによるカウルと外装の製作。もうひとつはそのカウルをカスタムパーツとして量産すること。今回製作しているカーボンの外装は、現行のノーマルスポーツスターにポルトオンが可能なパーツとして販売する予定だ。とは言いビルダー相川拓也が単なるポルトオンカスタム車両をショーに持ち込む訳がない。ロッドショーに出展するカスタムとは、ホットロッド、つまり絶対スピードやスピード感を追求したカテゴリーのカスタムでなくてはならない、という相川のルールがある。

ラバーマウンツのスポーツスターをベースに、クラシックなスポークホイールと世代前の国産レーサーレプリカの正立サスペンションを組み合わせた足回り、そこにカーボン外装というハイブリッドなカプエレーサーなのである。

カーボン製カウル製作の手順は、まず耐溶剤発泡ウレタンで造形をしてからFRPを積層、パテで整形した原型を作り、その原型を元に雌型を作った後、カーボンクロスを貼り込んでカウルが出来上がる。取材当日は造形作業がまさに現在進行形。通常のスタイロフォームに比べて細かくて硬いウレタンを削ると、まるで砂のような削り粉が舞い散るため、作業は別室。少し削ってはバイクに持って来てあてがって確認。また削り部屋に戻る。粉塵を防ぐマスクとゴーグル姿で戦いの真っ最中であった。

「みなさんが金属加工をしているのに、僕だけ樹脂で申し訳ありません」と恐縮する相川だが、柔らかいものには柔らかいものゆえの苦勞がある。原型が出来てもカーボンになるまでいくつもの工程を経なくてはならないのだ。



の塗装の代わりにセラコートも多用していること。セラコートとは米軍指定塗料で、いわゆるミルスベックの強力な表面加工。一般の塗装よりはるかに強く、650度の熱に耐え、荒く扱ってもまったく剥がれることがない。プラスチックにも金属にもOKで、つや消しではあるもののほぼ無限に調色もできる。キャブレターやステップ、スイッチ類にはセラコート処理を施すという。

取材の時点でホイールのスポーク製作や部品のコーティングなどは外注手配済みとは言え、マフラーやトリプルツリーはまだ手付かず。フレームのエンジン下にも2本のサイレンサーが置かれ「こんな感じかな」というが、作業はギリギリまでかなりそうな気配もある。ビルダー相川の妥協なき仕事の結果と云うべきか。

店舗は通常通りの営業で、自分だけは日付が変わるまで連日作業しているという相川。搬入日の朝に作業が終わっていることを祈ろうではないか。

シュアショット  
千葉県八街市八街へ199-1123  
tel\_043-312-0900  
www.sureshot.jp

